

302) あの日々に帰りたい

1枚の写真から すぎし日がよみがえる
学校の樹の下に 僕たちが写ってる
思い出はいつだって 人生の別れ道
懐かしいあの日々に 今すぐに帰りたい

雨が降る公園を ぼくたちは歩いてた
ひとつ傘腕組んで 沈黙が続いてた
若き日のまぼろしは 果てしない過去の夢

夏空の砂浜で 影法師追いかけた
たわむれに抱きあい 唇づけを交わしてた
人生に流されて 思い出は遠くなる

これっきり逢えないと お互いにわかってた
年上のその女ひとの 嫁ぐ日が近かった
すぎし日の哀しみは 美しく過去になる
懐かしいあの日々に 今すぐに帰りたい
思い出はいつの間に だんだんと遠くなる
懐かしいあの日々に 今すぐに帰りたい